

■ 歴代校長



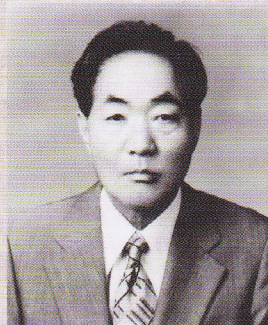
中 蘭 喜 節
(昭和43.4~昭和45.3)



下 川 正 男
(昭和45.4~昭和47.3)



永 吉 功
(昭和47.4~昭和50.3)



本 田 親 行
(昭和50.4~昭和52.3)



加 治 屋 一 馬
(昭和52.4~昭和54.3)



桑 波 田 正 巳
(昭和54.4~昭和57.3)



田 中 達 郎
(昭和57.4~昭和60.3)



大 森 秀 治
(昭和60.4~昭和62.3)



川 畑 文 男
(昭和62.4~平成元.3)



有馬 昭夫
(平成元.4~平成4.3)



宮路 莊六
(平成4.4~平成7.3)



末永 工
(平成7.4~平成10.3)



脇田 敏弘
(平成10.4~平成12.3)



吉元 正幸
(平成12.4~平成14.3)



馬籠 勝典
(平成14.4~平成17.3)



志水 洋二
(平成17.4~平成20.3)



森山 武志
(平成20.4~平成22.3)



黒江 修一
(平成22.4~平成24.3)

卒業生数 (全日制) ※昭和43年4月鹿児島西高等学校創立以降の卒業生総数は16,189名に上ります。

卒業年	回数	商業科		合計	累計		
		男	女		男	女	合計
54	1	21	154	175	21	154	175
55	2	18	154	172	39	308	347
56	3	7	167	174	46	475	521
57	4	2	175	177	48	650	698
58	5	4	177	181	52	827	879
59	6	1	164	165	53	991	1,044
60	7	2	164	166	55	1,155	1,210
61	8	1	211	212	56	1,366	1,422
62	9	0	221	221	56	1,587	1,643
63	10	2	217	219	58	1,804	1,862
1	11	2	221	223	60	2,025	2,085
2	12	0	218	218	60	2,243	2,303
3	13	0	269	269	60	2,512	2,572
4	14	0	267	267	60	2,779	2,839
5	15	2	256	258	62	3,035	3,097
6	16	2	267	269	64	3,302	3,366
7	17	1	264	265	65	3,566	3,631
8	18	1	261	262	66	3,827	3,893
9	19	3	224	227	69	4,051	4,120
9	19	海外留学者(H9.7.19) 1		1	69	4,052	4,121
10	20	0	247	247	69	4,299	4,368
11	21	2	221	223	71	4,520	4,591
12	22	4	214	218	75	4,734	4,809
13	23	6	225	231	81	4,959	5,040
14	24	5	218	223	86	5,177	5,263
15	25	3	228	231	89	5,405	5,494
16	26	5	221	226	94	5,626	5,720
17	27	5	181	186	99	5,807	5,906
18	28	2	174	176	101	5,981	6,082
19	29	4	147	151	105	6,128	6,233
20	30	5	143	148	110	6,271	6,381
21	31	2	145	147	112	6,416	6,528
22	32	2	151	153	114	6,567	6,681
23	33	2	151	153	116	6,718	6,834
合計		116	6,718	6,834			

Message

鹿児島県立鹿児島西高等学校の閉校

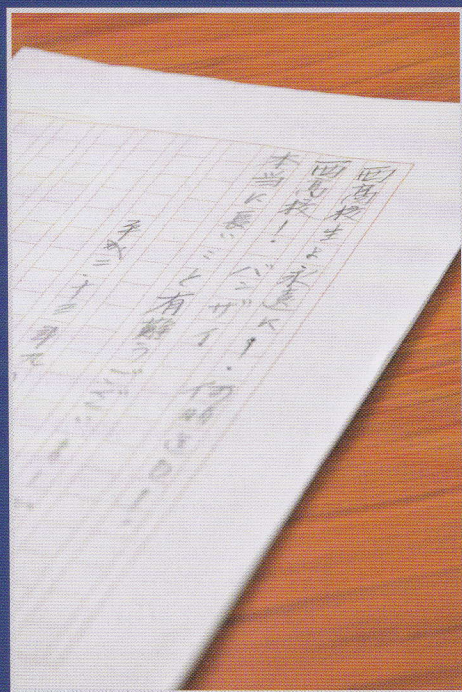
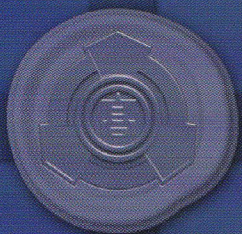
昭和53年全日制商業科卒 山下 浩次

輝かしい全日制一期生として入学したものの、最初の驚きは男子生徒の少なさでした。確か27名ぐらいだったでしょうか？ 小中学校で経験したことのない人数でした。一体、クラスマッチ、運動会はどうなるのかと不安がよぎりました。

在学中の思い出は、文化祭等の時、特技であるギターで、その頃流行のフォークソングを友人と二人でステージに立って歌ったことかな？ 自分を見る目が先生やクラスメートも変わりましたね。ちょっとした自分の中での転機だったのかもしれませんが。

卒業して30年以上たちますが、今でも、同級生数人で年に1・2回飲み会をやっています。飲み会の度にあの頃に戻れます。こんな素晴らしい同級生に出会う場所をつくってくれた「西高へ ありがとうございます」。

第3部 思い出



残された一枚の案内状

昭和24年鶴丸高等学校定時制夜間普通科卒 杉村 幸雄

私の手許に一枚の案内状が残されています。

B5版の美濃紙にタイプで印刷されたものです。

「暑熱の厳しい折柄先生には益々後進の指導にご専念されてゐる由卒業生一同衷心より感謝に堪えません。

就きましては今回有志の発起により先生方と一堂に会し且は久闊を叙し且は旧交を温め以つて一夕の歡を尽くしたいと存じます。

何卒萬障御繰合せの上ご出席下さい。

先づは御招きまで申し上げます。

一、日時 八月七日(日)午後五時

一、場所 鶴丸高校

六部会幹事 杉村幸雄」

日時は八月七日(日)の日付から昭和24年ということが分かり、場所は当時の旧制一高女の同窓会館でありました。文章も未熟で血気にはやった感じがします。当日の様子の記録はありませんが、やがてこの会が鶴丸夜間同窓会へと発展して参ります。



若き時代を思う

昭和30年鶴丸高等学校定時制夜間普通科卒 平田 清隆

昭和25年鶴丸高校を受験し、合格できたものの家庭の事情で入学を断念。だが何として高校は卒業しなくてはと、翌26年夜間課程に入学しました。1年遅れての入学で少々不安でしたが、先生よりも年上の人もおられホッとしました。

当時はとにかく学びたいと志す人が夜間高校へ進学してきました。4年間担任の先生も変わらず、良き学友に恵まれて、楽しく過ごせました。

卒業後も、尾中先生を囲む会が発足し、先生の卒寿のお祝いを平成20年11月に開催するまで続けられ、参加できたことを誇りに思っています。

先輩と器械体操部を発足し、毎日夜11時頃まで練習、練習後夏はプールで汚れを落とし家に寝に帰り、翌日は仕事と、よくぞ身体が続いたものと今になって我ながら感心しています。何事にも努力と忍耐が必要です。それには、まず健康であること、何をするにも心と身体の健康があつてこそできるものです。お互い目標に向かってくじけず、力強く頑張っていきましょう。



今もあざやか! 鶴丸夜間の4年間

昭和31年鶴丸高等学校定時制夜間普通科卒 仲宗根 將二

鶴丸夜間の4年間は人間形成の時期であつた、と常々己に言い聞かせている。それだけに今なお記憶は鮮明である。

1950年3月、中学を^お卒えて、生涯の職業たり得るはずだと奨められた国の機関の受験に失敗し、気落ちしていた。1年後、偶然知り合った複数の友が鶴丸夜間の1年生であつた。「一緒に勉強しよう」と誘われ、1952年春受験し入学した。1年間はPFC(郵便友の会)と柔道部、2年生は文芸部、3年生は新聞部、その間、音楽部と社研にも出入りした。

学級は入学から卒業までA組、担任は数学の山里義吉先生。途中様々な事情で退学する者、逆に昼間から編入してくるものもいたが、大方は4年間一緒であつた。

学習はもとより、文化祭、弁論大会、運動会、遠足など、今も脳裡に浮かぶ。鶴丸夜間に誘ってくれた友は50余年、今も交流が続いている。

それだけに鶴丸夜間の伝統をもつ学校が消える(?)のは、身を切られる思いである。

